

# 視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和6年7月18日

北上市議会 北上まほろばクラブ

代表 三宅 靖

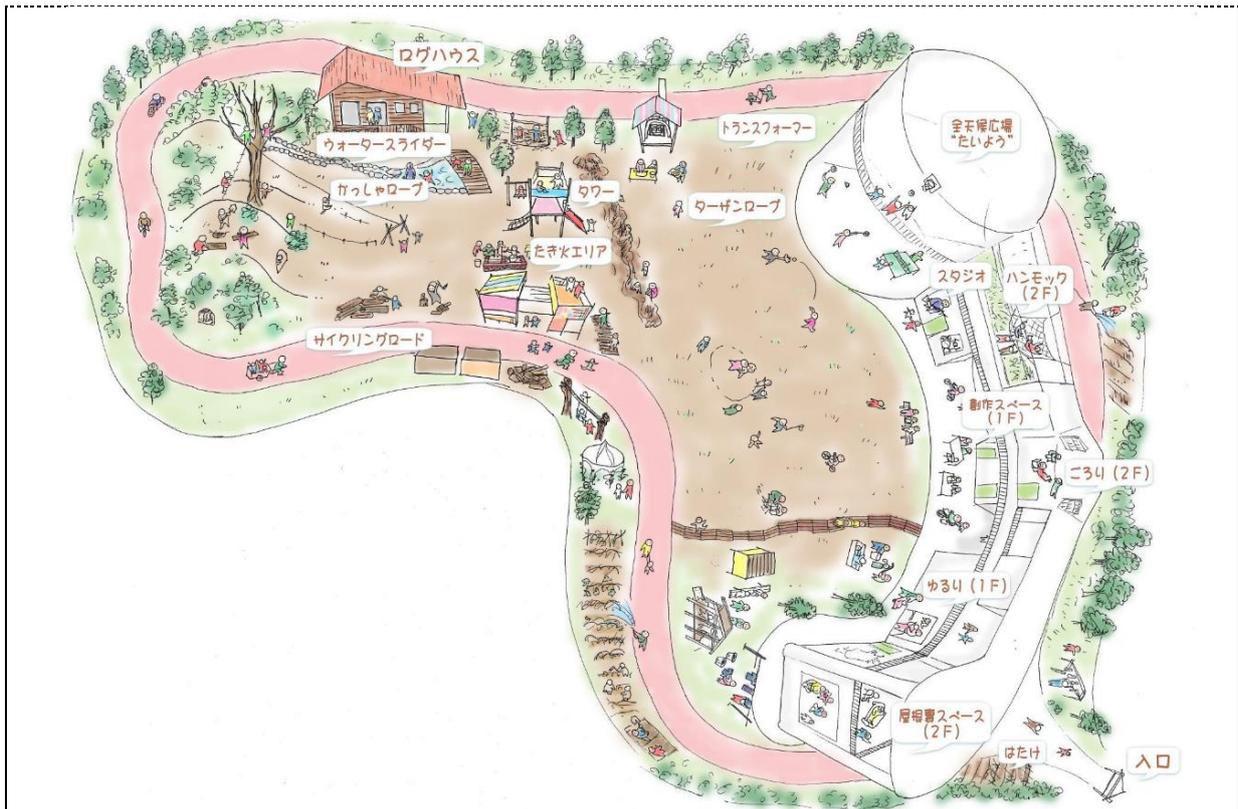
期間（期日）	令和6年7月12日（金） 10:00～12:40
視 察 先 視 察 内 容 ま た は 研 修 事 項	フリースペース「えん」 於：川崎市子ども夢パーク
参 加 者	三宅靖、梅木忍、平野明紀、佐々木護、白鳥顕志、千田優子
説 明 者	特定非営利活動法人フリースペースたまりば 理事長 西野博之 氏

## [内容及び所感]

<b>【内容】</b>
1. フリースペース「えん」の概要と設立背景
(1) いじめや不登校の実態
・人口約150万人の神奈川県川崎市において、不登校児童生徒はおよそ2800名。
・文科省データでは、いじめが不登校の原因となっているのは約0.3%とされているが、重大事態と言われるいじめは昨年全国で923件と年々増加している。
・いじめが最も多い学年は全国調査で、1番多い順に小2、小3、小1となっており、低学年から、児童がストレスを抱えていることが窺える。
(2) 不登校問題
・少子化が進む現代において、子どもの自死は年々増加し、昨年・一昨年ともに日本では500名を超えており、子どもたちのいのちが脅かされている。尚、10～20代の死亡原因の1位が“自死”という国は日本だけ。
・背景には子どもの「自信」を奪う大人の「不安」があり、親が先回りし失敗させない、正しい親になろうとする、早期教育によって、「ちゃんと」「普通に」を子どもに求める社会があると考えられる。
・「普通に学校に行けない」ことだけでいのちを落とす子どもたちや、自分を否定し続ける子どもたちがいる。「不登校」の問題は、子どもの「いのち」の問題に直結している。
(3) 設立の背景と子どもの権利条例設定
・川崎市が不登校や居場所作りに取り組んだ背景には、少年による殺人事件、支援学校での体罰死があり、市民が行政だけに教育を任せず市民が守るという機運が高まったことがある。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・1998年から条例作りを始め、2000年に条例を提出、2001年から施行された。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・条例作りには子ども達も関り、2年間で200回もの会議開催を経て制定。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・条例づくりの最後の会議に年長の子どもが発した言葉「まず、大人が幸せにしてください。大人が幸せじゃないのに、子どもだけ幸せにはなれません。大人が幸せでないと、子どもに虐待とか体罰が起きます。条例に「子どもは愛情を持って育まれる」とありますが、まず家庭や学校、地域の中で大人が幸せでいて欲しいのです。子どもはそういう中で、安心していきることができます。」</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども夢パーク・フリースペース「えん」は、「川崎市子どもの権利に関する条例」を具現化した場所として、2年間で200回の会議・集会を経て夢パークが作られた。夢パークの位置付けは条例第27条(子どもの居場所)による施設で、公設民営で指定管理精度により運営されている。</li> </ul>
<h2>2. フリースペース「えん」の取り組み</h2>
<h3>(1) 子どもの「遊ぶ権利」</h3>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものやりたい気持ちを大切に、大人はできるだけ見守る（大人のよかれは、子どもの迷惑）。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会は「子どもの時間」は削られ、やりたいことよりやらなければいけないことを優先し、子どもたちが苦しんでいる。フリースペース「えん」では「何もしない」ことを保証し、子どもの「遊ぶ権利」を守っている。</li> </ul>
<h3>(2) 親への支援</h3>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちを守る上で大切なのは親支援。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人の不安が子どもの不安につながるため、3つの親の会も運営している。親同士が話すことが大切。。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な不登校支援では個人情報保護の視点から親同士を繋げないようにするが、ここでは親に確認して出会わせていくことで、親が子どもを追いつめることを防ぐ。</li> </ul>
<h3>(3) 学習支援</h3>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の理由は子ども自身も分からないことが多い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休む経験が自分にとって意味のある時間だったと思えるように支えることが重要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市では各区に学習サポートセンターを市が設置しているが、6ヶ所合わせても年間20名しか利用していない。対して「えん」は114名の子どもたちが通っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「えん」に通う子ども中には発達障害など障害を抱える子どもが約半数いる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市は、市内の民間フリースクールの授業料一部補助、交通費補助の他に、学習アプリを無償提供し、家庭や通信環境のある場所でも学べるようにしている。</li> </ul>
<h3>(4) 「えん」の基本的思想</h3>
<p>①「生きている」ただそれだけで祝福される存在</p>

<p>・「えん」では、「生きている」ただそれだけで祝福される存在であると子どもたちが思えることを最優先し、目先の学校復帰のみをゴールとせず、将来的な「社会的自立」を目指している。</p>
<p>⇒「えん」のスタッフ採用に関しても、何らかの資格を持っているかよりも、この考え方ができるかどうかを重視している。</p>
<p>・昼食のメニューから決める食事作りを毎日行い、孤食から共食へつながりを取り戻す。</p>
<p>⇒一般的な子ども食堂は、週1回とか月1回の開設が多いが、「えん」では、毎日、お昼を作って食べさせている。メニュー作成や、買い出し・調理も手伝いたい子どもは手伝っている。</p>
<p>・演劇や音楽・美術など様々な講座を設け、表現することから子どもたちのやる気を引き出している。</p>
<p>⇒「様々な体験」する事を重視し、その中から興味が持てる事、得意な事が見つかればよい。</p>
<p>・大学生ボランティアや元教師も関わり、学習のサポートも行い、やりたい時から学びなおせる環境にしており、小中学校不登校の子どもたち全員が高校進学を選択し、進学している。そこには異年齢で生活する中で、先輩たちがモデルになっていく循環ができていく。高校進学を目的にしている訳ではなく進言もしていないが、子どもたちは自分で選んで自分から学び始める。</p>
<p>②インクルーシブな環境</p>
<p>・自閉症等の障がいがある子ども、「困った子」ではなく「困っている子」として捉え、環境の方が変わることによって、子どもたちが安定し学校に戻ることを選んだり、親の態度に変化をもたらしている。</p>
<p>・健常な子どもたちも、障がいがある子どもへの気遣いも生まれる。</p>
<p>③他自治体からも受入（人数制限あり）</p>
<p>・「えん」では他自治体の子どもも通っている。予算は川崎市から出ているが、これまで他自治体にも支えてもらっていることから（乳児院等川崎市が持たない施設を他市にお願いしている）、同じように無料で受けている。ただ市外枠を設け、まず川崎市民優先で受け入れている。</p>
<p>・子どもたちは原則1人で通うが、離れると不安が強い子どもは親同伴で通ってもらっている。</p>



\*子ども夢パークMAP

### 3. こども夢パークとの関係

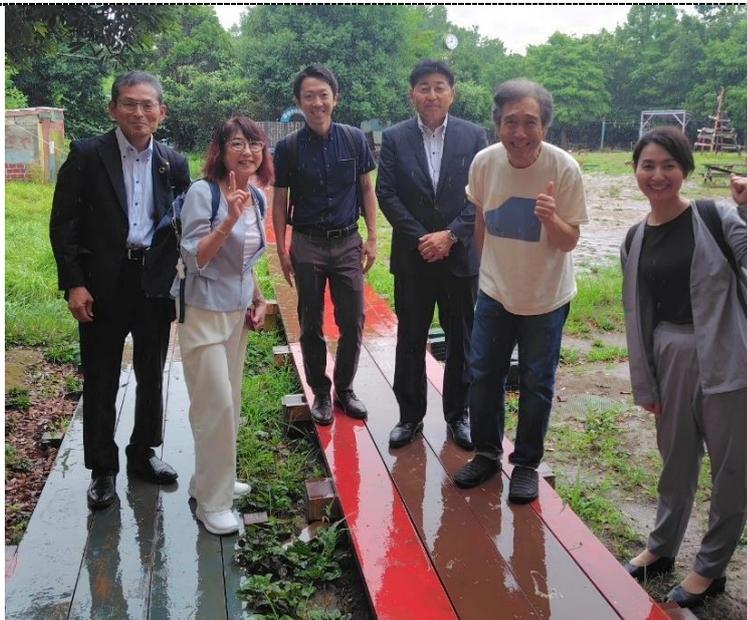
- ・こども夢パークは誰でも利用できる場所として設立されており、特に不登校の子どもに限定されていない。
- ・フリースペース「えん」は不登校の子どもを主な対象としている。
- ・夢パークは子どもの「遊ぶ権利」を重視し、自由な活動を提供している点で共通しているが、「えん」はさらに不登校の子どもたちの社会的自立を目指した支援を行っている。
- ・「えん」は不登校の子、「夢パーク」は誰でも来られる場所としているが、夢パークやイベントで子ども同士交わることも多く、影響を与え合っている。



※雨の中、手作りウォータースライダーで遊ぶ子どもたち

#### 4. まとめ

- ・フリースペース「えん」は、不登校の子どもたちの居場所として、彼らの「遊ぶ権利」を守り、社会的自立を支援している。こども夢パークと共に、川崎市の子どもたちが安心して過ごせる環境作りに貢献している。



#### 【所感】

- ・子どもの権利条例を策定する際に、子どもたちを交えて、2年間に200回も会議を開催した事と、最後に子供が言った「大人が幸せじゃないのに、子どもだけ幸せにはなれません。大人が幸せでないと、子どもに虐待とか体罰が起きます。条例に「子どもは愛情を持って育まれる」には涙が出た。全ての原因は大人にあると、つくづく感じた。
- ・同様の施設も北上市でもあった方が良いとは思いますが、担える人材が居るかどうかは課題。
- ・雨の中で遊ぶ子どもたちを見ていると、本来の子どもの姿だと改めて思った。自分が子どもの頃も、泥んこになって遊んでいた事を思い出した。